

『風と花』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

小中連携 中学校教員による小学6年生への出前授業

河口湖南中学校教員による出前授業

小立小 12月8日(木)に、小立小学校(小河原徳博校長)にて、河口湖南中学校教諭 小川昂先生と岩村美玖先生による数学の出前授業が行われました。6年1組(28名)と2組(28名)を対象に行われました。

内容は中学に入学すると最初に数学で勉強する「正負の数」。トランプを使ってゲーム感覚で瞬時にプラス・マイナスの計算ができるようになる練習をしました。身近にある物を使ってわかりやすく、子どもたちのリアクションも良く、笑い声があふれる活気のある授業でした。また、両先生方からの、「中学校の勉強に、そんなに不安を持たなくていいよ。大丈夫だよ。」というメッセージが感じられた授業でもありました。



船津小 1月23日(月)に、船津小学校(立川博校長)にて、河口湖南中学校教諭 小宮山奈央先生(国語)、小森麻美先生(英語)、ルディー・パブロフ先生(英語)、後藤みよ子先生(社会)による出前授業が行われました。6年生(合計85名)を対象に行われました。

1組で行われた国語の授業では、中学校で初めて学ぶ漢文の授業。難しい言葉や熟語の確認から始めて、「朝三暮四」を読みながら漢文の楽しさを丁寧に説明していきました。

2組で行われた英語の授業では、スピーキングだけでなく、中学校で初めて学ぶライティングも取り入れた授業。“My name is ~” “I like ~” “I want to study ~” などの表現を使って自己紹介文をつくりました。

3組で行われた社会の授業では、実際に中学校で使っている地理の教科書を使って勉強しました。世界地図を使いながら、昨年行われたサッカーワールドカップ出場国の場所を見つけていきました。

中学校で初めて習うことを中心に、どの先生方も非常にやさしく、わかりやすく説明していました。中学校での授業が待ち遠しくなるような時間となりました。



大嵐小

1月19日(木)に、大嵐小学校(小野剛校長)にて、河口湖南中学校教諭 金丸聖奈先生による美術の出前授業が行われました。6年生(2名)を対象に行われました。中学校に入学して初めて学ぶ「美術」。『「美術」ってどんなことをするのかなあ?』と期待と不安の入り交じった児童たちに対して、作品の製作を通して美術の素晴らしさを体感してもらいました。

今回の授業のテーマは「大嵐小のようせい(妖精)を見つけよう!」。まず初めに児童たちはフロッターージュ(こすり出し)と呼ばれる技法を使ってでこぼこ模様を紙に写し取りました。そしてその模様のついた紙を切り貼りし、自分なりの大嵐小学校の妖精を作り上げていきました。それぞれ「大嵐小に花を咲かせる妖精」と「飛び回って上からみんなを見ている妖精」が出来上がりました。

同じ時間、同じ場所を使って作り上げた二人の妖精ですが、それぞれ全く違う妖精が出来上がりました。『「美術」の授業というものは上手な絵を描くことではありません。その人が見たもの、感じたものを表現することです。人によって見る力が違うので、当然作品も人によって違ってきます。自分と違っていいことの大切さを確認することが『美術』の授業です。』という金丸先生の言葉が非常に印象的でした。

*木(の板)、石、硬貨など、表面がでこぼこした物の上に紙を置き、例えば、鉛筆でこすると、その表面のでこぼこが模様となって、紙に写し取られる。このような技法およびこれにより制作された作品をフロッターージュと呼ぶ。



鳴沢小

1月26日(木)に、鳴沢小学校(堀内千登勢校長)にて、河口湖南中学校教諭 杉本まゆみ先生とルディー・パ
プロフ先生による英語の出前授業が行われました。6年生(29名)を対象に行われました。

授業の冒頭で、ルディー先生からいきなり

“How many students are there in Konan J・H・S?”

“How many teachers are there in Konan J・H・S?”

“How many English classes are there from Monday to Friday?”

“How many club activities are there in Konan J・H・S?”

などの質問。児童たちは次々と大きな声で答えます。正解がでるとみんなで拍手。クラス全体が英語を話しやすい雰囲気になりました。

今回の授業の目標は英語で自己紹介をすること。児童たちが理解できるまで杉本先生とルディー先生が何度もモデルパターンを披露。繰り返していくうちに、児童たちは自然にモデルパターンを自分でリピートしていました。最後にクラス全体に自己紹介。最初ははずかしがって手が上がらなかった児童も、クラスの楽しい雰囲気の中で最後は積極的に手を上げていました。

積極的に英語を話したり書いたりする児童たちを見て、小学校の英語教育の成果を感じました。



吉田中学校教員による出前授業

吉田小 2月6日（月）に、吉田小学校（渡辺聡校長）にて、吉田中学校教諭 小笠原綾子先生（英語）、高部大先生（数学）、村松朗先生（社会）による出前授業が行われました。6年生（103名）を対象に行われました。

6年3組で行われた社会の授業では、世界地図を使いながら中学校で学ぶ「地理」を勉強しました。まず最初はグループでさまざまな写真を見て、それがどこの国にあるのかを考えました。なかなか難しく、どのグループもかなり苦戦している様子。村松先生がタイミング良くヒントを出してくれました。“スフィンクス”“マーライオン”“マチュピチュ”“ウルル（エアーズロック）”等のヒントをタブレットで調べ、解答欄を埋めていきました。

授業の最後にはいくつかのピクトグラムも紹介。イスラム教徒の礼拝ピクトグラムには児童たちも興味津々。世界中にはさまざまな文化・風習があることも学びました。



吉田西小 2月8日（水）に、吉田西小学校（齊藤浩司校長）にて、吉田中学校教諭 小笠原綾子先生（英語）、高部大先生（数学）による出前授業が行われました。6年生（43名）を対象に行われました。

6年2組で行われた数学の授業では、まず初めに高部先生から「算数きらいな人？」の質問。多くの児童たちが手を挙げ、高部先生も思わず苦笑いするなかで授業が始まりました。

本日の目標は「新しい数の存在を知ろう」。「マイナス」の存在や「 $\sqrt{\quad}$ 」（ルート）の意味を勉強するなかで数の世界を広げていきました。「マイナス」の勉強は、天気図の最高・最低気温やサッカーの得失点差の表を使いながらおこないました。「 $\sqrt{\quad}$ 」の勉強は折り紙と計算機を使いました。「 $\sqrt{\quad}$ 」は中学校3年生の6月頃に勉強するので少し小学生には難しい内容でしたが、折り紙と計算機を使って非常にわかりやすく説明し、多くの児童たちがうなずきながら説明を聞いていました。



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHPからご覧いただけます。

URL：<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望、地域連携活動の情報がありましたら、教育支援スタッフ地域教育担当までご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 教育支援スタッフ 0554-45-7841

丹波山村 小中合同みそ作り体験

2月16日（木）に、丹波小学校にて、丹波小学校（小山博史校長）・丹波中学校（加々美竜也校長）合同でみそ作り体験が行われました。6月のポットへの大豆播きから始まり、11月の大豆収穫、12月の脱穀と続きました。そして今回はいよいよ最後のみそ作りです。小学生と中学生が合同で仕込みをおこないました。

「楽しくつくれば、みそもおいしくなる！」地域住民の講師の方のかけ声から始まりました。まずは大豆のすり潰し。事前に茹でてやわらかくなった大豆をビニール袋に入れ、みんなで叩いたり踏んだりしてすり潰します。小学生の子どもたちは楽しそうにジャンプをしながら踏んですり潰します。なかには勢いが強すぎてビニール袋が破けてしまうところも。次に「塩切りこうじ」作り。こうじをしっかりと手でほぐし、すりこむように塩を合わせていきます。丹波山村の伝統的なみそは、米こうじと麦こうじを使った「合わせみそ」。ただ非常に特徴的なのは米こうじよりも麦こうじの方をたくさん入れること。基本的な合わせみその比率は50：50ですが、丹波山村のみそは80：20で麦こうじの方をたくさん入れます。「おそらく以前から地形の関係でお米を収穫することがむずかしかったため、麦の方が多くなったのだろう」といった地域の文化も学びます。塩切りこうじができると、すり潰した大豆と混ぜ合わせます。大豆のゆで汁を加えながらたくさんの手で混ぜ合わせていきます。十分に混ぜ合わされたところで野球ボールくらいのみそ玉を作り、空気が入らないように隙間なく桶に詰めていきました。

小学生の子どもたちは、教室の授業では体験できない作業に本当に楽しそうでした。一方、中学3年生の生徒達にとってはこれが最後のみそ作りとなり、なんとなくさみしそう。卒業後もこの思い出を忘れずに、次のステージで頑張りたいと思いました。



明日の風 アスリート実技講習会

2月18日（土）に、大月市勤労青年センター体育館にて、第5回アスリート実技講習会が実施されました。当日の最低気温はマイナス1℃。体育館の中も底冷えがする寒さでしたが、合計33名の北都留地区の小学校児童たちが元気いっぱい体を動かしました。

全体での体づくり運動の後、5班に分かれて「立ち幅跳び」「5段飛び」「反復横跳び」「30mダッシュ」「上体起こし」の5種目をローテーションでおこないました。慣れていない児童は、「5段跳び」のはずが、「6段跳び」になってしまうことも。また「30mダッシュ」では、ゴール直前で力を弱めてしまう児童に対して、「ゴールのちょっと先が本当のゴールだと思って走ろう」のアドバイスが、2本目には自己最高記録を更新し、飛び上がって喜んでいました。

最後は一番盛り上がる「交流リレー」。講師の先生方のさりげない配慮もあり、低学年の児童の多いチームのコーンはゴールに近づけられ、距離が短くなっていました。そのためか、非常に激しいデットヒートが繰り広げられ、判定員の先生方も順位判定に悩んでしまうほどでした。

いよいよ次回は今年度最後の実技講習会となります。3月4日（土）に大月市宮陸上競技場にておこないます。初めて参加の児童も大歓迎です。みんなで気持ちの良い汗をかきましょう。



まち探検発表会

～旭小に通う盛里の学童保育児童のまち探検～

2月3日（金）に、盛里の学童保育（旭小学校1～5年生）が、盛里コミュニティセンターにて『まち探検発表会』をおこないました。1年間かけてまち探検を行い、地域の自然や史跡、安全環境などについてまとめたものを伝えました。

「ここにはカリンが実ってるんだ。カリンって食べられるのかなあ。地域の人に食べ方を聞いてみよう。」「この辺には鹿が住んでいるんだよ。牛もいる。」「ここはキンモクセイのいい香りのするところ。」など、たくさんの発見をチームに分かれて調べ、地域の方に取材してまとめたものを発表しました。

「この道はガードレールがないからちょっと危険だな」「横断歩道だけど車の多い危険な場所もあるよ」「ここには消火栓があるから火事の時に使うんだ」など、セーフコミュニティにも貢献。地域の皆様の協力を得て、地域の魅力と安全のための発信ができました。

この会は、環境教育の一環として都留市地域環境課の提案により、旭ここにクラブを運営する支援員の三枝里実さん達の指導により実現。旭小学校閉校後も学童保育は地域と連携し、継続します。



都留興譲館高校

教育実践公開発表会

2月2日（木）に、都の杜うぐいすホールにて、都留興譲館高校（小佐野景賀校長）の教育実践公開発表会が開催されました。コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度は3年振りに参集しての開催となりました。

英語理数科の課題研究発表では、2年生の生徒2名が「美術のデジタル化とこどものICT教育について」のテーマで発表を行いました。ICT教育が進んでいる今、美術の授業はどのように変化して、また子どもたちにどのような影響を及ぼしているのかという疑問から始まり、自分たちなりの仮説を立てました。そして調査を行った上で美術の授業にICTを取り入れることのメリット・デメリットを比較し、最終的に検証、及び結論へと進めていきました。一連の流れが探究活動そのものであり、非常に論理的に進められていました。

また、工業科の課題研究発表においては、全ての学科の生徒たちが試行錯誤をしながら、さまざまな物を作り上げたり、コンテストに挑戦した姿が発表されました。多くの生徒たちが、「やってみてはじめてわかった」と感想を述べていました。座学では得られない、課題研究ならではの学びにつながったと思います。

発表一覧

| | |
|--------------------------|---------|
| 『自分の未来を考える（私の進路）』 | 普通科1年 |
| 令和4年度 第2学年 修学旅行報告 | 普通科2年 |
| 『美術のデジタル化とこどものICT教育について』 | 英語理数科2年 |
| 『マイクラフトを用いた都留興譲館高校校舎の建設』 | 制御工学科3年 |
| 『測量について』 | 環境工学科3年 |
| 『エコランカーの製作』 | 機械工学科3年 |
| 『電子工学科 課題研究 電源装置班』 | 電子工学科3年 |



第3回南北都留教育相談ネットワーク会議

2月9日(木)に、富士・東部教育事務所主催の南北都留教育相談ネットワーク会議(会長 都留児童相談所 小林豊子 所長)が開催されました。この会議は南北都留の教育相談員、SC、SSWの先生方で構成され、子どもたちの学校生活を連携して支援することを目的とし、年3回行われるものです。今回は今年度最後の開催となりました。

今回は、やまびこ支援学校の小林由季先生による「特別支援学校のセンター的機能について」と「登校しづりが見られる学生に対する支援について」の実践提案がなされました。その後の討議では、各グループごとに不登校やゲーム依存などの課題を抱えた事例での本人や保護者への対応や、校内での支援のみならず関係機関との連携という視点での話し合いを行いました。最後に、都留文科大学の中川佳子先生による指導・助言がありました。

当ネットワーク会議においては、教育機関との連携を通し、児童生徒のニーズに応じた指導の向上に努めています。さらに充実した指導体制の構築をめざし、来年度も様々な意見交換を行っていききたいと思います。



山梨ことぶき勸学院学習活動全体発表会

1月25日(水)に、甲州市民文化会館にて、山梨ことぶき勸学院学習活動全体発表会が行われました。発表会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年連続で中止となっていて、3年ぶりの開催となりました。

山梨県下6教室の山梨ことぶき勸学院生が集まり、各教室ごとに2年間学んだ学習内容やクラブ活動の成果を発表しました。富士・東部地区管内からは、北都留教室と南都留教室の2つの生徒の方々に参加しました。

北都留教室の発表タイトルは、『日本三奇橋「名勝猿橋」に迫る』でした。猿橋の「歴史・伝統」「文学・民話」「絵画・写真・音楽」の3つの柱に沿ってグループで調査活動をおこない、そのまとめを発表しました。南都留教室の発表タイトルは、『南都留地区の御神楽—伝統の継承—』でした。発表者の方は、「調査活動をしたことをきっかけに地元の祭事や芸能に興味が出てきた。今後は、身近に感じた神楽に焦点を当て、神楽の良さや地域力の強さを伝えていきたいと思う。」と感想を述べられていました。

